

インタビューのねらいと方法

2016/03/09

菊地 直樹

総合地球環境学研究所

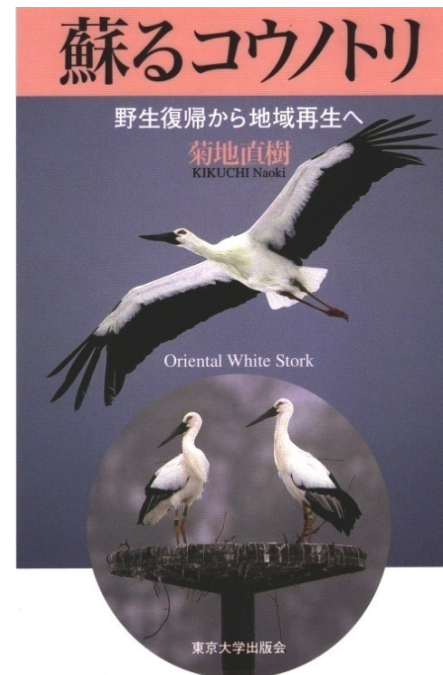
知の跳躍プロジェクトへのかかわり

- このプロジェクトのリーダーである村松伸さんからの誘い
- おそらく、チームの再編の必要性があった
- 菊地が、インタビューを主な調査手法としていると聞きつけた(あるいは、菊地が自分でアピールした?)
- 「菊地のやり方で、インタビューを実施してもらいたい」(村松談)

コウノトリ時代(1999-2013)

コウノトリの野生復帰プロジェクトでのインタビュー調査

- 野生下にいたコウノトリの生息情報の記録化
- 言葉になりにくい人とコウノトリのかかわりを紡ぐこと
- 414人から聞く
- 総ページ数: 6,630



地球研時代(2013-)

地域環境知プロジェクトでのインタビュー調査

研究者が地域に住みつくことは、その意図にかかわらず、地域社会に多面的な影響を発生させることとなりますが、レジデント型研究者がどのように地域に住みついているのか、様々な役割や義務を果たしながら、研究や活動を行い、知識の生産流通を行っているか、レジデント型研究者自身が地域社会に住みつくことによってどのように変容しているのかといった多面的な評価については、十分に議論されてきたとはいえません。地域社会に深く関与しようとするこのプロジェクトでは、研究者が住むことと研究することの間に横たわる問題を、正面から取り上げる必要があると考えました。

112回の調査を実施

- 北は北海道斜里町、南は沖縄県石垣島まで
- 全体で112回の調査を実施
- 聞き取り対象者数：88人
- テープ起こし原稿の総ページ数：5,464ページ



知識の性質

- ・科学的知識
- ・在来知
- ・知識と人格の不可分性

機能

トランスレーション

- ・物語化
- ・生活化
- ・信頼の構築

研究方法

- ・同化/異化
 - ・共感
 - ・理解
- ・研究と活動の循環性
- ・複数の立場の往復作業

方法

経験

- ・地域住民と通底する経験
- ・地域住民と通底しない経験
- ・再帰的な当事者性
 - ・身体・空間的配置
 - ・重層的空間レイヤー

条件

関係性

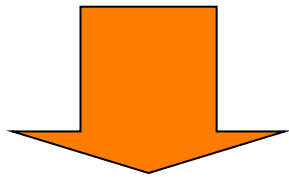
- ・地域内関係
- ・立場の複数性
- ・異なる目的の相互受容
 - ・漸近線的接近
 - ・身体的コミュニケーション
 - ・概念的コミュニケーション

知の跳躍プロジェクト時代(2015-)

- 地球研研究の研究(自己評価研究)
- 地球研という場における知の跳躍とは何か？
- 知の跳躍を生み出す地球研という場とは何か？
- リーダーや主要なメンバーへのインタビュー調査をおこない、その記録を解釈することから、上記のクエスチョンに迫ってみよう！

◆信頼性 (reliability) : 誰が何回測定しても同じ結果が期待できる程度

◆妥当性 (validity) : 「正しい」回答を生み出す程度、研究の目的や期待に適っている程度 (桜井厚)



◇「聞き込み」と「聞き取り」の違い

◇語り手の視点の重視

◇「妥当性」を高める研究方法の一つとしてインタビュー調査の可能性

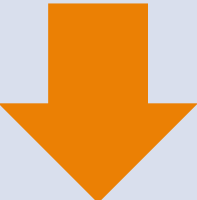
◇社会の課題から出発するトランスディシプリナリティ (超学際) 研究では、妥当性の高い研究方法が求められている？

◇人びとの合意というよりも「納得」を生み出す言説形成

インタビューのねらいと方法

- ・その人がどのように生きてきて
- ・どこで何を学び
- ・どのように研究に向き合い

- ・いかに協働的にプロジェクトを運営し
- ・どのようなリーダーシップを持ち
- ・何を持って成果と考えているのか

	調査の性質	語りの性質	データの性質	データ整理	調査スキル
インタビューシート方式 	仮説検証型	分断的語り	活動の定点的な 多面性の把握 比較が容易 ポストイット的 データ	比較的容易	マニュアル化 しやすい
半構造方式	問題発見型	相互的語り	思いつきのプロ セス全体性 をとる 比較が難 物語的データ	比較的困難	経験がないと 難しい

A. 研究者になるまで

どんな子どもでしたか。

「アラブ」との接点

現在の専門分野に関心を持つに至る経緯

B. 研究者になってから

これまで取り組まれた研究、活動について

出会って刺激を受けた人々

C. 地球研プロジェクトとのかかわり

地球研とかかわるきっかけ

地球研研究プロジェクトの申請に至るまで

プロジェクト形成匂いて議論したこと、刺激を受けた人々

インタビュー

	プロジェクト	語り手	当時の立場	聞き手
2015/08/08	インダス	長田俊樹さん	PL	村松・菊地・近藤・安富・熊澤・鎌谷
2015/09/07	インダス	長田俊樹さん	PL	菊地・近藤・安富・鎌谷
2015/10/09	アラブ	縄田浩志さん	PL	菊地・近藤・熊澤・安富・鎌谷
2015/10/19	インダス	前杢英明さん	コアメンバー	菊地・近藤・鎌谷
2015/12/03	アラブ	縄田浩志さん	PL	菊地・近藤・安富・熊澤・鎌谷
2015/12/11	アラブ	坂田隆さん	コアメンバー	菊地・近藤・安富・熊澤・鎌谷
2015/12/21	インダス	寺村裕史さん	研究員	鎌谷・近藤・安富・熊澤
2016/01/27	アラブ	中村亮さん	研究員	菊地・近藤・安富・熊澤・鎌谷
2016/02/17	アラブ	石山俊さん	研究員	熊澤・安富・鎌谷・近藤

インタビューの流れ(PL編)

1回目

- これまでの履歴(約30~40分)
- 研究者になってから地球研に来るまで(約90分)
- だいたい120分

2回目

- 地球研でプロジェクトを立ち上げてから現在まで(約100~120分)
- 現在の仕事と地球研プロジェクトの経験(約20分)
- だいたい120分

思わず「絵画的な語り」と、もらす

- 無機質な地球研の会議室で、まだ見ぬインドの匂い、街並み、湿度などが思い浮かぶ
- 冒険心、ゆるさ、平均からの逸脱、謙虚さ等



重信幸彦(2015)「『聴き耳』のゆくえ」

他者のことばに耳を傾けることで、自らが何を「知った」のか、やや極端に言えば、聴く前の自分と、聴いて「知った」後の自分は何が変わったのか、それを自覚しうるか否かという問題として考えてもいいだろう(135)。

思わず「劇的な人生ですね」と、もらす

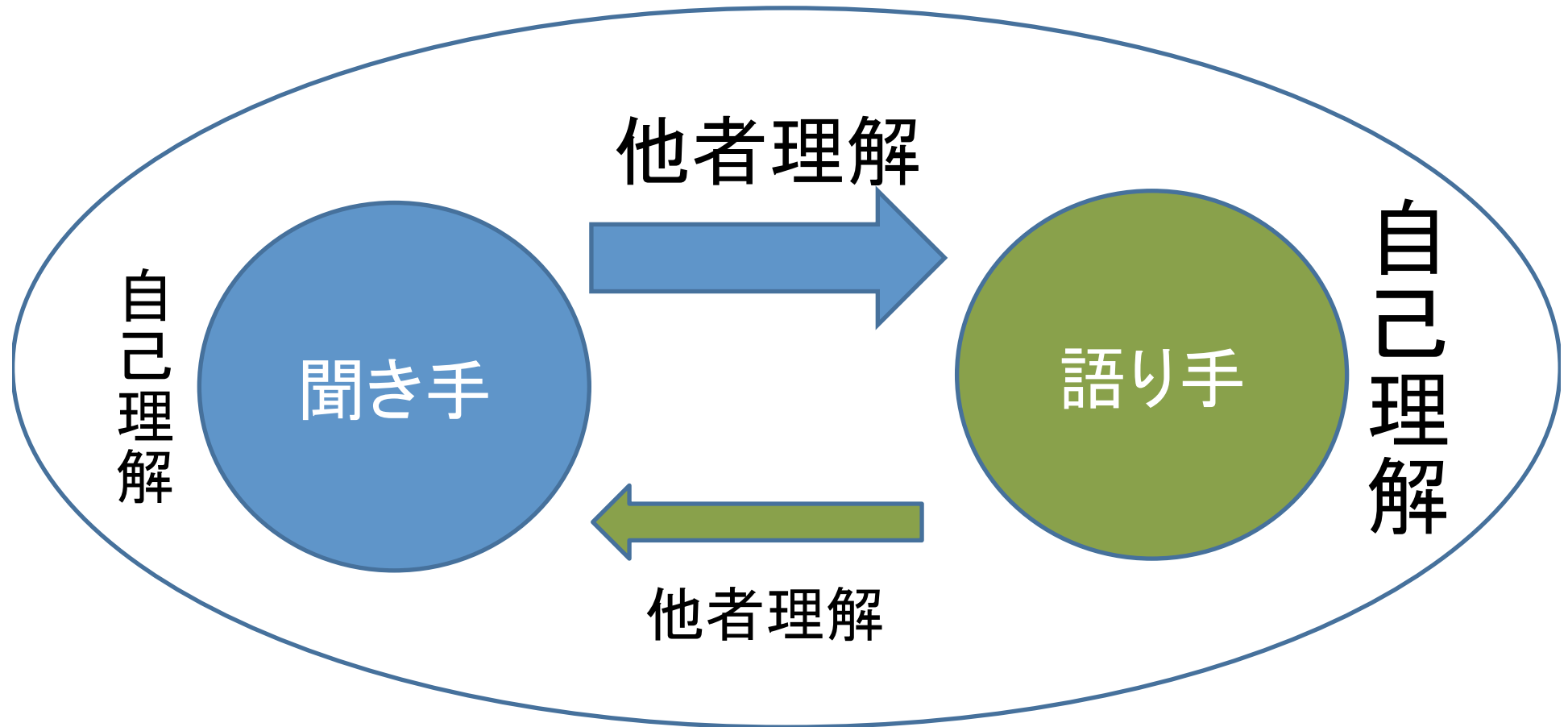
- 砂漠での子どもとの出会い
- 現場の共有、偶然の飼いならし、緩やかなリーダーシップ



重信幸彦(2015)「『聴き耳』のゆくえ」

他者のことばに耳を傾けることで、自らが何を「知った」のか、やや極端に言えば、聴く前の自分と、聴いて「知った」後の自分は何が変わったのか、それを自覚しうるか否かという問題として考えてもいいだろう(135)。

他者理解と自己理解



他者分析と自己分析が融合した新しい分析方法の模索

小さな知の跳躍の場としてのインタビュー

- 知の跳躍プロジェクトは、地球研研究の研究
- 私にとっては、さまざまな学びの場
- 語り手である、かつてのリーダーたちにとっては、どんな場だったのか？
- なんらかの形で、自己発見につながり、未来に向けた場になっていたら、とても嬉しい
- 小さな知の跳躍の場としてのインタビュー
- できれば、続けたいが・・・